

		ページ
EUREKA 〈研究紹介〉	名残の月 —巨大衝突により形成された周地球円盤から—	小久保英一郎 296
	原始星形成の理論モデル	増 永 浩 彦 304
天球儀 〈読物〉	インターネット天文台の構築： その1. 安く、早く、簡単に	佐 藤 毅 彦 312 坪 田 幸 政 松 本 直 記
シリーズ	《 <sup>そらと</sup> 天空翔ぶ天文台(6)》 太陽観測衛星 Solar-B	原 弘 久 318
書評	「地上に星空を —プラネタリウムの歴史と技術—」	320
雑報	日本天文学会内地留学報告書	321
	ペルーへ天体望遠鏡を寄贈するためのご支援のお願い	322
	天体教育フォーラム 「どれだけできる? 「恒星」 についての内容 —新学習指導要領による小・中・高等学校の天文教育—」	324
月報だより		326

[ 表 紙 説 明 ]

周地球円盤の粒子の速度分散が衝突により小さくなると重力不安定が起こり、周地球円盤に密度のむらが成長する。むらは差道回転により伸ばされて渦状腕となる(左上)。渦状腕の重力トルクによってロッシュ限界の外側に運ばれた粒子は合体し、“月の種”が形成される(中央)。月の種は独占的に成長し、ある程度大きくなると内側に残っている円盤を地球に落す。1つの大きな月が1月という時間スケールで形成される(右下) [CG作成: 小久保英一郎(東京大学)・三浦 均(武蔵野美術大学)]. (EUREKA「名残の月」参照)

(表紙イラストレーション: 藤居保子)